

ヘアアイロンによる 子どものやけどに注意！

医療機関ネットワークには、2019年度以降の約5年間に43件のヘアアイロンによるやけどの事故事例が寄せられています。その内、約7割が0歳～2歳の子どもの事例でした。

事故事例の多くは、保護者が使用したヘアアイロンを子どもが触れてしまうことによってやけどを負った事例でした。

事故事例

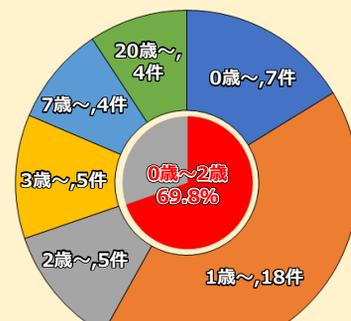
事故発生日月：2020年7月、1歳10カ月、女児

- －普段は子どもの手の届かないようにしているが、使用前に洗面所で温め中のヘアアイロンを子どもが引っ張り、子どもの左上腕にあたってしまった。左上腕に30×20mm大の水疱あり。

商品テスト

※71℃をやけどが生じ得る温度の閾値としています。

- －プレート、パイプ等の加熱面は約4秒～64秒で71℃に達しました。
- －電源を切った後に加熱面が71℃以下になるまで平均で10分以上かかりました。
- －加熱面以外の筐体の温度は多くの銘柄で71℃に達し、最高で117℃まで上昇する銘柄もありました。



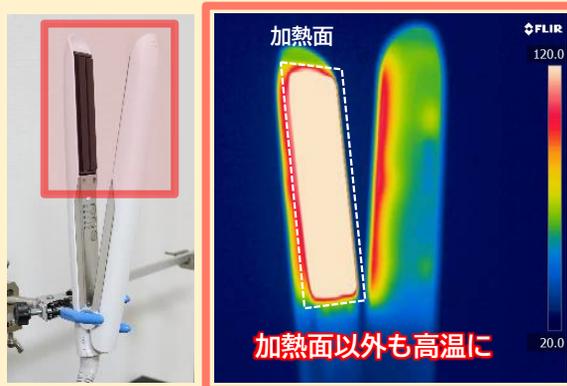
やけどをした人の年齢の内訳



電源コードを引っ張ろうとする様子



電源を入れた直後の様子（一例）



筐体の温度（一例）

消費者へのアドバイス

- －ヘアアイロンは子どもが近づかない場所に置きましょう。
- －加熱面以外も高温になるため、取扱いには十分注意し、高温部には決して触れないようにしましょう。
- －特に子どもがいる家庭では、使用後のヘアアイロンが冷めるまでの間は置き場所にも十分注意しましょう。

※写真の商品は事故事例とは関係ありません。